

OpenText Core Endpoint Backup

オンプレミスのボールド導入のサイジングガイドライン

概要

OpenText™ Core Endpoint Backup は、Microsoft® Azure パブリッククラウド内で実行するように設計され、OpenText によってホストおよび運用されてきました。エンドポイントデバイス向けのクラウドホスト型 Backup-as-a-Service ソリューションとして、お客様に優れた柔軟性と拡張性を提供します。さらに、Enterprise Key Controller を導入することで、お客様が管理している暗号化キーを使用して、すべての顧客データを暗号化できるため、データのプライバシーとコンプライアンスに関する懸念に対処できます。

完全なオンプレミス導入が必要なシナリオ向けには、オンプレミスコンポーネントで実行するようにカスタマイズされた、修正されたソリューションを提供します。ほぼ無限に拡張できるクラウドホスト型の Backup-as-a-Service ソリューションと比較すると、オンプレミスでの導入には制限があるため、オンプレミスでの Endpoint 導入では、デバイス数を 2,000 台以下にしてください。OpenText Core Endpoint Backup のオンプレミス導入は、1 つ以上の Vault Controller と Microsoft SQL Database サーバーで構成されます。

その他の前提条件と要件については、[Knowledge Base](#) を参照してください。

サイジングガイドラインについて

指定されたサイジングガイドラインは、デバイスあたりの保護されたストレージの平均容量である 25GB に基づいています。保護されたストレージの平均容量が 25 ~ 50GB の環境の場合、Microsoft SQL Server 用に指定された RAM の容量を 2 倍にすることをお勧めします。保護されたストレージの平均容量が 50GB を超える場合、お客様は、環境を分析し、アーキテクチャとサイジングの推奨事項を提供する OpenText プロフェッショナルサービス契約が必要となります。

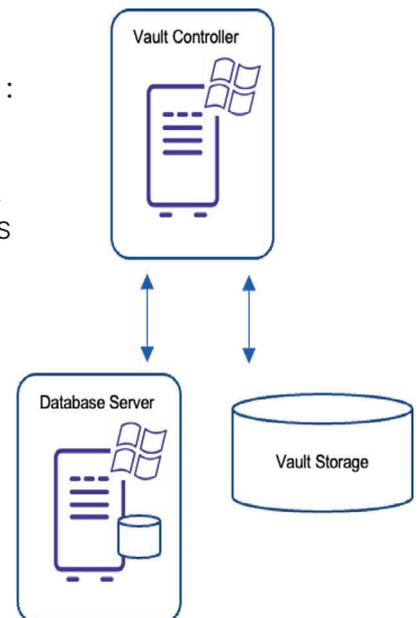
また、ボールドでアクティブ化する新しいデバイスの数は、1 週間に最大 100 台までに維持することをお勧めします。新しいデバイスのオンボーディングの目標は、アクティブ化から 7 日以内にデバイスの 80% で最初のバックアップを完了し、追加のアクティブ化によるサーバーの過負荷を防止することです。

最大 500 台のデバイスを導入

最大 500 台のデバイスの導入は、少なくとも 1 つの Vault Controller で構成されます。Vault Controller は、接続されたエンドポイントデバイスのバックアップ機能を提供するアプリケーションロジックをホストします。Vault Controller は、バックアップオブジェクトに関連するメタデータが格納されている Microsoft®SQL Server データベースインスタンスに接続します。バックアップデータオブジェクトを別のファイルサーバーにホストすることをお勧めします。これにより、追加の Vault Controller またはストレージの場所でソリューションを拡張する際に柔軟性が最も高くなります。複数の Vault Controller を導入する場合、ボールドストレージは別のファイルサーバーに配置する必要があります。

推奨仕様 (デバイスあたり 25GB の保護されたストレージ) :

- Vault Controller :
4GB 以上の RAM と
2 つの CPU コア
- データベースサーバー :
8GB 以上の RAM と
4 つの CPU コア
- データベースファイル
とログファイルは、OS
とは別のボリュームに
格納してください



最大 2,000 台のデバイスを導入

最大 2,000 台のデバイスの導入は、少なくとも 2 つの Vault Controller で構成されます。エージェントからダッシュボードへの Vault Controller へのアクセスは、ネットワークレベルで負荷分散されている必要があります。Vault Controller は、接続されたエンドポイントデバイスのバックアップ機能を提供するアプリケーションロジックをホストします。Vault Controller は、バックアップオブジェクトに関連するメタデータが格納されている Microsoft SQL Server データベースインスタンスに接続します。ポールのストレージは別のファイルサーバーに配置する必要があります。

推奨仕様 (デバイスあたり 25GB の保護されたストレージ) :

- Vault Controller : Vault Controller あたり 8GB 以上の RAM と 4 つの CPU コア
- データベースサーバー : 32GB 以上の RAM と 8 つの CPU コア
- データベースファイルとログファイルは、OS とは別のボリュームに格納してください

注 : Microsoft SQL Server データベースインスタンスを物理ハードウェア上で実行して、パフォーマンスのボトルネックをそのサーバーに限定し、パフォーマンスが共有リソースに影響しないようにすることをお勧めします。

概念実証

概念実証とトライアルでは、専用のインストーラーを使用できます。概念実証は 1 台のサーバーに導入されます。そのサーバーは、Vault Controller コンポーネント、Microsoft SQL Server Express インスタンス、ポールのストレージをホストします。概念実証のライセンスは組み込まれており、30 日間に限定されています (延長不可)。注 : 導入された概念実証を本番環境での導入に変換することはできません。

推奨仕様 :

- Vault Controller : 8GB 以上の RAM と 4 つの CPU コア

プロフェッショナルサービス

OpenText は、オンプレミス OpenText Core Endpoint Backup ポールの評価、設計、導入をサポートするプロフェッショナルサービスを提供しています。対象のサービスの詳細については、OpenText アカウントマネージャーにお問い合わせください。

